鉄の棺桶

山野抹茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鉄の棺桶

【Nコード】

N2759O

【作者名】

山野抹茶

【あらすじ】

エセ近未来SF小説。

ダモクレスは人間のように二本の足で地上に立つ。

人間のような柔らかな皮膚やしなやかな肢体や筋肉はない。鋼のボディの下にはいくつもの配線やパイプがある。もちろんチューブも隠されており、赤い血液の変わりに黒いオイルを機体にめぐらせる。

しかし、その鋼鉄の身体をダモクレスは自分で動かすことはできずに沈黙したままだ。

もし、楢崎がダモクレスの心臓部（コクピット）に乗り込めば、騎士を模したかの

ような頭部のアイカメラがひかり、楢崎の命令した通りにその身体が動くだろう。
楢崎は、自分が生きてきた１７年間を振り返ってもさっぱり分かりはしなかった。きっかけもはじまりも不明慮なのに、楢崎はダモクレスに乗ることになっている。楢崎の意思とは反対に。

ダモクレス

ダモクレスは人間のように二本の足で地上に立つ。
人間のような柔らかな皮膚やしなやかな肢体や筋肉はない。鋼のボディの下にはいくつもの配線やパイプがある。もちろんチューブも隠されており、赤い血液の変わりに黒いオイルを機体にめぐらせる。しかし、その鋼鉄の身体をダモクレスは自分で動かすことはできずに沈黙したままだ。
もし、楢崎がダモクレスの心臓部（コクピット）に乗り込めば、騎士を模したかのような頭部のアイカメラがひかり、楢崎の命令した通りにその身体が動くだろう。

パイロットスーツに身を包ませた楢崎は、ダモクレスを見上げていた。
いつも思うのは、ダモクレスにどうして乗ることになったのかということ。何がきっかけで、何がはじまりなのか。楢崎は、自分が生きてきた１７年間を振り返ってもさっぱり分かりはしなかった。きっかけもはじまりも不明慮なのに、楢崎はダモクレスに乗ることになっている。楢崎の意思とは反対に。
しかし終わりは明確だ。ダモクレスから生きて降りるか、死んで消えるか。
「楢崎」と呼ばれて振り返る。
エンジンオイルを飛び散らせた青い作業服に工事用のヘルメットをかぶった男、篠原がレンチを持ちながらやってきた。
「今日の調子はどうだ？」
「最低」
いつだって調子がいい時なんてない。ダモクレスに乗ることを考えると憂鬱になる。ここに来るまでに何度、家に引き返そうかと思ったことか。篠原にじっくり訴えたところで、何が変わるということ

はない。
篠原はダモクレスの体調を管理することを仕事にしていて、楢崎の体調を管理するのを仕事にしているわけではないのだから。いまだって、お世辞程度の挨拶だろう。と、こんなことを考える楢崎がひねくれているのか。
「朝メシは食ったか？　顔色が悪いぞ」
「いつもと同じくらいなら問題ない」
そう、問題なんてない。今日も問題なく医者には健康だと太鼓判を押してもらえたのだから。
タラップへの足取りが重たい。歩くことに一歩を踏み出す力がいるなんて、ダモクレスに搭乗するまで楢崎は知らなかった。
階段を登りきると、そこにはダモクレスの心臓がある。スライド式の扉が開いて、大きな口をあけている。中は球体になっており、ディスプレイが白く光っており『Ｗｅｌｃｏｍ』と表示されていた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2759o/

鉄の棺桶

2010年10月12日14時19分発行